

Costume and Textile

No. 50

服飾文化学会会報

2025年9月

2025（令和7）年度 第26回服飾文化学会総会・大会の報告

2025年度 第26回服飾文化学会総会・大会は5月17日（土）・18日（日）の両日にわたり、共立女子大学（東京都千代田区）にて開催され、正会員73名、非会員8名、学生会員5名、学生非会員1名、高校生1名と保護者1名の合計89名の皆様にご参加下さいました。

なお、高校生の参加は、昨年度より服飾に興味のある高校生の参加を募る意図から、本学会理事所属大学の附属高等学校や連携校に総大会のお知らせをした結果によるものです。今後さらなる参加につながることを期待いたします。以下は大会の報告です。

1. 口頭発表会・作品・ポスター発表

研究発表件数は、口頭発表5件、作品発表7件、ポスター発表2件、合わせて14件でした。

17日は玉田真紀会長の開会の辞に続き、口頭発表が行われ、それぞれの発表に活発な質疑応答が行われました。

18日は作品、ポスター発表が行われました。制作者の意図をより深く理解するために、パワーポイントを用いたショートスピーチを行いました。その後、伊藤

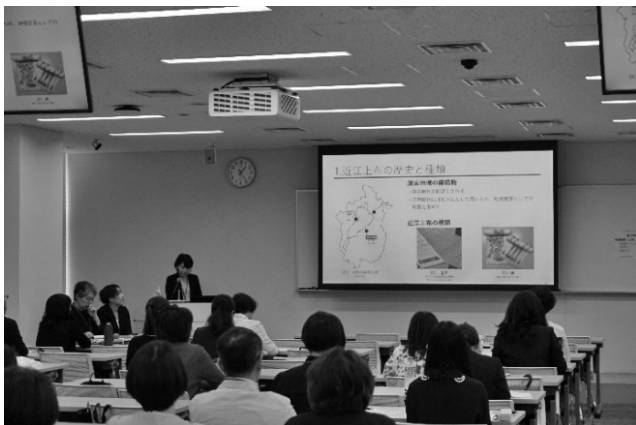


口頭発表の質疑応答の様子

瑞香副会長の閉会の辞を挟み、展示作品・ポスターの前で各発表者からの説明が行われ、参加者と熱心な質疑応答が行われました。



作品・ポスター会場の様子



口頭発表の様子



作品・ポスター会場の質疑応答の様子

2. 特別講演

国立歴史民俗博物館准教授の澤田和人氏による「着物コレクター野村正治郎の活動と人物像」の講演が実施されました。

澤田氏のご研究は中世から近代の日本の染織史・服飾史と幅広く、今回ご講演いただきました野村正治郎のコレクションに関しては、長年にわたり国内外の調査研究を行われています。おもな論文やご著書は「野村正治郎の初期の活動－刺繍貿易商から骨董商へ」『MUSEUM』第674号（2018）、「野村正治郎とアメリカ人の顧客－ルーシー・トルーマン・アルドリッチの場合－」小山弓弦葉・長谷川聖子編『調査研究報告 基盤研究（A）日本染織コレクションの形成とその美術的価値観の確立に関する研究』東京国立博物館（2022）、『野村コレクションⅠ・Ⅱ』国立歴史民俗博物館（2013・2014）や「アメリカにおける日本染織品に対する嗜好の変化－野村正治郎の販売活動を手掛かりとして」日高薫・国立歴史民俗博物館編『異文化を伝えた人々－19世紀在外日本コレクション研究の現在』臨川書店（2019）などです。

講演では2025年10月28日より国立歴史民俗博物館にて開催されます「野村正治郎とジャポニズムの時代」展に先駆けまして、着物コレクターである野村正治郎に焦点を当て、お話を頂きました。まず、野村正治郎が京都の美術商として日本の染織品を主力商品として外国・外国人にいかなる販売戦略を取っていたのか、その活動について豊富な資料と緻密な分析により検証された内容をご説明いただきました。さらに野村正治郎という人物が生涯をかけて着物の美とその重要性を国内外に発信し、日本の染織史の発展になくならない存在であったことをご紹介いただく貴重な機会となりました。



特別講演の様子

3. 博物館見学

17日、18日の両日共立女子大学博物館で開催の企画展「絵画×ファッション－春にめぐる装いの世界－」を自由見学していただきました。



共立女子大学博物館入口

18世紀から20世紀の服飾と絵画を組み合わせた装いの世界をご覧いただきました。例えばロココ期の華やかな装飾で彩られた男女の西洋服飾「ローブ・ア・ラングレーズ」や「アビ・ア・ラ・フランセーズ」とウィリアム・ホガースの風刺画や、20世紀に花開いた新しいファッションの方向性を象徴するマリアノ・フォルチュニとその土壌となったラファエル前派やエドワード・バーンジョーンズらの銅版画との共演など本学のコレクションをお楽しみいただきました。

4. 情報交換会

初日夕方に本学2号館カフェ「ラシュレ」にて開催いたしました。43名のご参加でした。

次年度開催校である大妻女子大学、須藤良子先生と中川麻子先生に開会のご挨拶、長崎巖元会長（現丸紅ギャラリー副館長）に乾杯のご発声を頂き、終始和やかな雰囲気でご歓談いただきました。

会には特別講演講師の澤田和人先生もご参加下さり、先生と研究のお話や、久しぶりの再会や歓談を楽しまれる方も多かったです。後半には本学博物館のコレクションのご紹介と展覧会のご案内をする機会を頂戴しました。



情報交換会の様子

5. その他

今年度もカメラマンの末正真礼氏により展示作品の撮影が行われました。

参加者皆様のご協力を頂きまして、第26回服飾文化学会総会・大会を無事に終了することができました。心から感謝申し上げます。

(大会実行委員 田中淑江)

●服飾文化学会 第26回 総会・大会プログラム

【5月17日(土)】

*開会の辞 13:00-13:05

服飾文化学会 会長 玉田真紀(尚絅学院大学名誉教授)

*口頭発表 13:05-14:20

❖座長 鈴木桜子(杉野服飾大学)

A-1 『サラ・ベルナールの衣裳にみるパブリック・イメージ-女優像の構築と受容-』
小寺和果 日本女子大学大学院

❖座長 深津裕子(多摩美術大学)

A-2 『昭和期における『近江上布』産業の興隆についての聞き取り調査』
野々村多慧子 滋賀県立大学大学院
森下あおい 滋賀県立大学

❖座長 大塚有里(東京家政大学)

A-3 『戦前の女学校における家政系講習会開催の意義-共立女子学園の取り組みを中心に-』
平田麻里子 お茶の水女子大学

❖座長 須藤良子(大妻女子大学)

A-4 『「翁」を中心とした衣装の比較調査-寺野ひよんどり-』
角谷彩子 文化学園大学

❖座長 宮武恵子(共立女子大学)

A-5 『日本のポップカルチャーとしての「カワイイファッション」の形成と社会的影響』
佐久間桃花 大妻女子大学大学院人間生活科学専攻
生活環境学専修 研究生

*特別講演 14:45-16:15

『着物コレクター野村正治郎の活動と人物像』
講師:澤田和人氏 国立歴史民俗博物館 准教授

*新HP紹介 16:15-16:25

*総会 16:25-16:55

*情報交流会 17:10-18:30

【5月18日(日)】

*作品展示ショートスピーチ(9:35-10:27)

◆司会進行 宮武恵子(共立女子大学)

B-1 『植物染料を用いた染色布による被布の制作-色彩文化に関連して-』
山川菜生 新潟青陵大学短期大学部

B-2 『芸術作品からのファッションデザイン』
木村友美 文化学園大学

B-3 『皮革の縫製技法-素材特性を活かした縫製仕様-』
小出 恵 文化学園大学

B-4 『編物雛形・子供用コート(東京家政大学博物館所蔵)の実物製作』
大塚有里 東京家政大学

B-5 『繊維廃棄物を用いた服飾品の制作-テキスタイル製織資材-』
柴田佐和子 岐阜市立女子短期大学

B-6 『光を活用したニット衣裳の表現技法』
権 裕美 共立女子大学

B-7 『型紙を活用した現代ファッション-琉球紅型からの衣服デザイン-』
青木あすみ 文化学園大学

*ポスター展示ショートスピーチ(10:27-10:39)

C-1 『アートから思考するファッションとその表現方法について』
梅田悠希 文化学園大学

C-2 『被服学専攻教育における直接人体計測法の測定誤差に関する研究』
権 裕美 共立女子大学

*閉会の辞 副会長 伊藤瑞香(和洋女子大学)

*作品展示・ポスター展示 説明・質疑応答

*自由見学 10:00-16:00(両日)

「絵画×ファッション-春にめぐる装いの世界-」
共立女子大学博物館

特集記事 著書『動画と図解でよくわかる！浴衣の仕立て方 はじめての和裁の教科書』紹介
田中 淑江 (共立女子大学)

近年、着物を着装することや、和裁を試みる機会は身近なことではありません。一方このような状況の中、浴衣は夏のファッションとして、また観光地での街歩きの装いとして定着しつつあります。そこで、着物の入門として浴衣を取り上げ、着物や和裁に興味を持ち、身近に感じてもらえるような書籍を目指しました。

本書では、一般の方が着物や和裁に抱く難しそうなイメージを払拭するため、表紙をはじめ全体のデザインを可愛らしく、親しみやすい雰囲気になっています。巻頭グラビアページは、浴衣を着ることの楽しさをお伝えするために、伝統的な装いだけでなく、アレンジした装いも掲載しています。また、お気に入りの反物や生地を使用して浴衣を作ることもお伝えするため、「推し活」に注目した装いも取り入れました。従来の反物を使用しない、様々な生地を組み合わせたオリジナルの浴衣です。さらに、浴衣は着ても着物は着ないという方の、次へのステップとして木綿着物やレース着物をご提案しました。お手入れがしやすく、普段着の着物として気軽に楽しんでいただけるのではないのでしょうか。

本書の構成は以下の通りです。

- 第1章 着付けと帯結び：女性、男性、子どもの着付けと帯結びのアレンジ
- 第2章 和裁を始める前に：和裁の道具や基礎縫い、和裁のテクニック、浴衣の名称や反物の選び方
- 第3章 浴衣（反物）の仕立て方
- 第4章 反物と洋服生地から仕立てる単衣や浴衣、肌襦袢・ペチコートなどの下着や半幅帯の仕立て
- 巻末 もっと和裁を楽しむために：着物や和裁の基礎知識や仕立てで出た端切れの活用方法、子どもの浴衣の揚げの方法など

本書の和裁の内容は、共立女子大学で138年間、歴代の和裁の教員が受け継いできた、学校教育における和裁教育の技術や心構えが根底となっています。丁寧で細やかな教授法と寸法に忠実、さらに効果的に道具を用いることは、本書の中でも大切にしております。そして、浴衣を仕立てたいと思った人が、最後まで諦めることなく仕立てることができるように、様々な工夫を凝らしました。まず①QRコードから作り方の動画を見ることができます。紙面だけでは難しい作業も動画で確認でき、自分のペースでいつでも振り返ることができます。②マスコットキャラクター「お縫い

ちゃん」が、和裁にトライする皆さんを応援し、和裁のポイントを伝えています。③「Advice」では作業がしやすくなるコツやテクニックを紹介しました。④「和裁ミニ知識」では着物の歴史や知っておきたい和裁の豆知識を記載しました。



本書は実用書ですが、作るためだけの和裁の教科書ではなく、和裁や和服を通して日本人のものを大切にする心や、代々伝えられてきた生活の知恵などもお伝えしています。さらに服装史的な知識を散りばめたので、専門的な側面も兼ね備え、着物を深く知るきっかけになると嬉しいと思っております。加えて、作ることにとどまらず着て楽しむことまで本書でご提案していますので、「コラム」を通して着物とのお付き合いの基礎知識や、たたみ方やお手入れ方法、着崩れの直し方や着こなしのアレンジ方法なども紹介しています。

現在は便利な世の中となり、時間をかけて物を作る機会は減っており、手仕事を伝える難しさを年々感じています。しかし和裁を通して、日本人が衣服と向き合ってきた仕立ての工夫や文化を伝える大切な機会と考えております。例えば布を大切にする、端切れも利用価値がある、糸の摩耗を防ぐために「きせ」があり、それが着物の直線美を表現している、洋服とは違い縫い代を裁ち落とさずに始末する方法が多数ある、縫い代がそのままなので縫い目を解くと、長方形に裁断したままの状態の布が現れ、そのことが仕立て替えを容易にするので、着物は循環型衣服である、仕立て替えができるから親子三代にわたり着物を受け継ぎ、大切に着用することができることなどが挙げられます。私自身も和裁や着物を知れば知るほど日本人の理にかなった知恵の奥深さに感動し、本書を通してこれまで受け継がれてきた文化をお伝えできればと思っております。

着物や和裁などの伝統文化や技術の継承が困難である現在、教育機関がその一端を担うことの重要性を感じております。微力ではありますが、本書が和文継承の一助になり得ましたら幸いと思っております。

2025 (令和7) 年度 服飾文化セミナーの報告

はじめに

今年度の服飾文化セミナーは、1泊2日で福井県内を巡りました。両日あわせて18名の正会員の皆さまにご参加いただきました。

1日目は、「福井市立郷土歴史博物館」を訪れ、松平家資料展示室での「武具へのこだわり」展、常設展示、特別展「松平春嶽と勝海舟」を見学しました。

2日目は、縫製会社「株式会社ラコム」、「福井県立恐竜博物館」、織りネーム製造会社「株式会社松川レピヤン」、チロルリボン製造会社「株式会社エイトリボン」を訪問し、工場見学させていただくとともに、ご講演いただきました。

概要

■福井県内において、展覧会鑑賞と繊維関連会社の製造工程を見学

<日時>

2025年9月5日(金)～6日(土)

<会場>

福井市立郷土歴史博物館

福井県福井市宝永3丁目12-1

株式会社ラコム

福井県勝山市滝波町1-218

福井県立恐竜博物館

福井県勝山市村岡町寺尾51-11かつやま恐竜の森内
株式会社松川レピヤン

福井県坂井市丸岡町舂田20-5-1

株式会社エイトリボン

福井県坂井市丸岡町堀水13-8

<プログラム>

1日目 9月5日(金)

- 14:00 福井立郷土歴史博物館前集合
松平家資料展示室「武具へのこだわり」展
ギャラリートーク：松村知也氏
(福井市立郷土歴史博物館 学芸員)
- 15:00 常設展示、夏季特別展「松平春嶽と勝海舟」、養浩館庭園を自由見学
- 16:00 ホテルへ移動
- 18:00 情報交換会 ろばた焼弥吉駅前店

開会の辞 会長：玉田 真紀先生

(尚絅学院大学名誉教授)

乾杯のご挨拶 元会長：能澤 慧子先生

(東京家政大学名誉教授)

2日目 9月6日(土)

- 7:55 福井駅東口バスロータリー集合
- 8:00 チャーターバスにて移動
- 8:45 株式会社ラコム 社内見学、講演
講師：織田 研吾氏
(株式会社ラコム 代表取締役)
- 11:00 チャーターバスにて移動
- 11:15 福井県立恐竜博物館 自由見学
- 12:15 チャーターバスにて移動
- 13:00 昼食 丸岡二八そば 大宮亭
- 13:50 チャーターバスにて移動
- 14:00 株式会社松川レピヤン 工場、社内見学
- 15:00 チャーターバスにて移動
- 15:10 株式会社エイトリボン 工場見学
- 16:20 チャーターバスにて移動
- 17:00 福井駅東口バスロータリー解散

■申し込み期間と方法

2025年5月19日(月)～7月10日(木)

QRコードおよびURLを記載し、申し込みフォームより申し込み。

■参加費(バス代、情報交換会費は参加希望に応じ別途加算)

会 員 1,000円

非会員 1,500円

学生会員・学生非会員 500円

詳細は、服飾文化学会のホームページの2025年度の服飾文化セミナーのページに掲載しております。

各見学先での様子

■福井市立郷土歴史博物館

福井市立郷土歴史博物館は、福井藩主越前松平家に関する資料や、福井藩、福井城の関係資料などの資料が展示された博物館です。

松平家資料展示室「武具へのこだわり」展では、学

芸員の松村知也氏に越前松平家に伝わる刀剣や具足（甲冑）について解説いただきながら見学しました。武士の魂ともいえる刀剣のこだわりのポイントをわかりやすくご解説いただき刀剣への理解を深めることができました。戦のない江戸時代の歴代の福井藩主が身に着けた具足（甲冑）は、実用性よりもデザインの斬新さ、華やかさが重視されており、それぞれの藩主の好みやこだわりが随所にあらわれていました。

■株式会社ラコム

勝山市にある株式会社ラコムは、1948年に創業した福井県内でも有数の縫製工場です。国内外の有名メゾンのボトムスの縫製を主に行っており、高度な技術によって顧客の求める高品質な製品づくりに取り組まれている様子を見学させていただきました。

元倉庫を活用した「SHIKOH STUDIO」は、社員が残反などを利用し自由な発想で創作活動を行うことができます。このスタジオから始まったクリエイティブなチャレンジが、現在は大きな利益を挙げている事例もご紹介いただきました。

また、代表取締役の織田研吾氏にご講演いただき、福井県内の染織業の特徴や同業他社との結びつき、さらに今後の人材育成の取り組みや小学校の家庭科の授業を通しての地域連携、他業種との連携、グローバルな事業展開など、幅広くさまざまな事業に取り組まれているお話を伺いました。大手アパレルからの受託中心から、製品開発、提案型のビジネスへと幅を広げて発展してきたお話からは、今後の日本の繊維産業の可能性を感じました。



ラコムでの講演会



ラコム社屋前での集合写真

■福井県立恐竜博物館

2000年に開館した恐竜を中心とする地質古生物学専門の博物館です。福井県は、勝山市での恐竜化石の発見から恐竜博物館を中心とした恐竜による地域活性化、地方創生の成功例として注目されており、その実例を見学しました。

■株式会社松川レピヤン

福井県坂井市丸岡町は、織ネーム（ブランドタグ）の生産量で国内シェア7割を誇る織ネームの町です。中でも1925年創業の松川レピヤンは、生産のトップシェアを誇る国内を代表する織ネームの会社です。

専務取締役の松川享正氏より、高密度織と呼ばれる極細の糸を使った高度な技術により、織りで表現するのが難しい繊細な模様やQRコードも織模様で表すなど高品質な織ネームを求める顧客の要望に応じているとのお話を伺いました。



松川レピヤンでの集合写真

また、2022年に完成した「福井でいちばん大きなおうち」をコンセプトにした新社屋も見学させていただきました。コンセプト通りアットホームでありながら、おしゃれなカフェを思わせる社員食堂では、手作りの定食が提供されたり、定期的にホームパーティと呼ばれる社内の懇親会が開催されるなど、社員同士のコミュニケーションを生み出す工夫が随所に見られました。仕事へのモチベーションアップには環境も大切だということを改めて感じました。

■株式会社エイトリボン

エイトリボン工場は、チロルリボンなどの細幅織物を旧式のジャガード織機を使って織る日本最大級のリボン工場です。現在は見る機会の少ない紋紙を使ったジャガード織機によってリボンを織る工程を間近に見学することができました。エイトリボン工場では、一般向けの工場見学やワークショップも行われており、

誰でも福井の織物文化に触れることができます。

併設されているRIBBON'S CAFEは、エイトリボン工場で織られたリボンが販売されているカフェで、リボンを使ったワークショップも開催されるなど、手芸好きの人達のコミュニティ空間となっています。

おわりに

現在もなお繊維産業が盛んな福井県を訪れました。福井県の繊維産業では、経営者、社員ともに若い世代の活躍が目覚ましく、クリエイティブな発想で新たなことに取り組む姿勢を目の当たりにし、福井の繊維産業の明るい未来を感じることができました。

情報交換会は、全国各地から参加された皆様の交流を深める機会となりました。多くの方にご参加いただき心から御礼申し上げます。

(服飾文化セミナー担当 金井光代)

HPリニューアルのお知らせ

2025年6月からHPがリニューアルしました。新HPでは、最新のニュース、総会・大会、研究例会、文化セミナーなどのお知らせ、過去の会報、学会誌論文投稿、服飾文化研究助成の資料等がダウンロードできます。また、HP左上にある「会員の方はこちら」から会員管理システムのSMOOSY（スムージー）にログインできます。ログインには、学会からのお知らせが届いているメールアドレスまたは会員番号を入力してください。初めてログインする場合は、最初に「初めてログインの方はこちら」をクリックして任意のパスワードを設定してください。SMOOSYでは住所、所属、資料送付先の変更、年会費の支払い状況の確認、領収書のダウンロードができます。また年会費のクレジットカード払いができるようになりました。新しくなったHPをぜひご活用ください。



エイトリボン工場見学



情報交換会



新HP QRコード

会計報告

①服飾文化学会 2024 (令和6) 年度 収支決算書 (2024年4月1日～2025年3月31日)

項目	予算	決算	予算との比較(△減)	備考
収入				
①年会費	1,332,000	1,361,000	29,000	2025正6,000×6名
				2024正6,000×181名、学生3000×8名、賛助会員20000×1社
				2023正6,000×16名、2022正6,000×8名、学生3000×1名
				2021正6,000×6名、2020正6,000×2名
②入会費	10,000	11,500	1,500	正1,000×10名、学500×3名
③年間購読料	54,000	48,000	△6,000	3,000×16件
④学会誌掲載料	450,000	663,700	213,700	服飾学研究Vol.6 No.1 2023 掲載料 (5件中1件) 服飾学研究Vol.7 No.1 2024 掲載料 (9件中7件)
⑤その他	0	332	332	料子 (332)
⑥繰越金	1,074,860	1,074,860	0	
収入計 A	2,920,860	3,159,392	238,532	
支出				
①経費				
1) 総会・大会運営費	150,000	150,000	0	
2) 学会誌発行費	1,600,000	1,572,087	△27,913	服飾学研究 Vol.7 No.1 2024
3) 事務管理経費	20,000	0	△20,000	
4) 通信費	75,000	27,194	△47,806	
5) 会報発行費	180,000	144,840	△35,160	会報no.48、49
6) 事務用品費	60,000	70,615	10,615	
7) 会議費	10,000	0	△10,000	
8) 交通費	20,000	30,000	10,000	
9) 雑費	10,000	1,860	△8,140	各種振込手数料
②事業費				
1) 事業費A	60,000	43,814	△16,186	研究例会
2) 事業費B	150,000	134,068	△15,932	論文発表会
3) 事業費C	0	0	0	2024年度 理事選挙なし
4) 事業費D	50,000	50,000	0	新設 服飾文化セミナー
5) 事業費E	5,000	0	△5,000	服飾文化研究助成
6) 事業費F	100,000	100,000	0	HP新設・運営
③広報費	150,000	130,704	△19,296	ホームページ更新料
④交流費	10,000	5,000	△5,000	生活科学系コンソーシアム2024年度年会費
⑤事務外部委託費	228,228	228,228	0	会員管理システムSMOOSY 243名分：2024年4月～2025年3月
服飾文化基金積立	0	0	0	
支出計 B	2,878,228	2,688,410	△189,818	
収支差額 A-B	42,632	470,982		
次年度繰越金	0	470,982		

②服飾文化学会 2024 (令和6) 年度 財政調整積立金収支報告書

項目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金			2,229,983	
総会・大会剰余金		71,363		会場費値上げのため
服飾文化セミナー剰余金	92,534			
	92,534	71,363	2,251,154	
項目	収入	支出	残高	
服飾文化基金	1,000,000		1,000,000	2009 (H21) 年度
	1,000,000		2,000,000	2010 (H22) 年度
	1,911,370		3,911,370	2023 (R5) 年度

③服飾文化学会 2025 (令和7) 年度 予算案 (2025年4月1日～2026年3月31日)

項目	予算額	前年度	前年度との比較(△減)	備考
収入				
①年会費	1,593,000	1,332,000	261,000	2025年度正会員223名、学生会員名、賛助会員1社の場合
②入会費	10,000	10,000	0	
③年間購読料	54,000	54,000	0	
④学会誌掲載料	580,000	450,000	130,000	
⑤その他	0	0	0	
⑥繰越金	470,982	1,074,860	△603,878	
財政調整積立金の取崩し	0	0	0	
収入計	2,707,982	2,920,860	△212,878	
支出				
①経費				
1) 総会・大会運営費	150,000	150,000	0	
2) 学会誌発行費	1,600,000	1,600,000	0	撮影料、英文要旨校正代、外部査読謝礼、J-STAGE掲載事務作業費含む
3) 事務管理経費	40,000	20,000	20,000	クレジット手数料等
4) 通信費	50,000	75,000	△25,000	
5) 会報発行費	160,000	180,000	△20,000	
6) 事務用品費	60,000	60,000	0	
7) 会議費	3,000	10,000	△7,000	
8) 交通費	30,000	20,000	10,000	監査・理事会交通費(実費上限10,000円)を含む
9) 雑費	5,566	10,000	△4,434	
②事業費				
1) 事業費A	60,000	60,000	0	研究例会
2) 事業費B	150,000	150,000	0	論文発表会
3) 事業費C	50,000	0	50,000	2025年度 理事選挙
4) 事業費D	50,000	50,000	0	服飾文化セミナー
5) 事業費E	5,000	5,000	0	服飾文化研究助成 事務費
6) 事業費F	0	100,000	△100,000	HP運営事業 新規設立のための費用であったため項目削除
③広報費	60,000	150,000	△90,000	HP更新・作成増、ドメイン更新、メルマガ配信契約費を含む
④交流費	5,000	10,000	△5,000	生活科学系コンソーシアム年会費等
⑤事務外部委託費	229,416	228,228	1,188	会員管理システムSMOOSY 2025年度見積額
服飾文化基金積立	0	0	0	
支出計	2,707,982	2,878,228	△170,246	
収支差額	0	42,632		

④財政調整積立金及び服飾文化基金の増減

	2024年度末残高	当期増加額	当期減少額	当期残高
財政調整積立金	2,251,154	0	0	2,251,154
服飾文化基金	3,911,370	0	0	3,911,370

*2015 (H27) 年度より特別会計の名称を財政調整積立金と変更

◇◇◇◇◇ 年会費のお支払いについてのお願い ◇◇◇◇◇

2025年度より、年会費のお支払い方法として「クレジットカード決済」がご利用いただけるようになりました。従来通り「ゆうちょ銀行」でのお支払いも可能ですが、smoosyへの反映が迅速であることに加え、二重払いの防止にもつながることから、本学会では「クレジットカード決済」を推奨しております。会員

の皆様には、円滑な運営のためにもクレジットカードでのお支払いにご協力いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

***** 事務局より *****

●会員異動 (敬称略、申込順)

【新入会員】正会員 権裕美 (共立女子大学) 中村茂 納多由紀乃 (独立行政法人日本芸術文化振興会) 前田都穂 (和洋女子大学) 畑中和花 (共立女子大学博物館) 学生会員 寺嶋薫 (共立女子大学大学院) 河原木美冬 (東京家政大学大学院) 閻梓巍 (武蔵野美術大学大学院) シュイ (文化学園大学大学院)

【退会】水上嘉代子 杉村祐貴子 田中俊子 野田百音 水谷みつ江 根本賀奈子 小田巻淑子 小西広実 能登原英代

◇◇◇◇◇ 服飾文化研究助成申請者の募集 ◇◇◇◇◇

昨年度より開始した若手研究者への研究助成応募締切は10月31日。資格は35歳以下、服飾文化研究の基礎及び応用研究に寄与する研究で、期間は原則1年以内、申請額は5万円以内、グループ申請も可。研究期間中又は終了後に服飾文化学会大会 (学生は論文発表会も可) で成果発表が必要。採択結果は翌年3月31日に本人宛に通知。詳細はHP掲載の応募要領と研究助成規定を参照。申請書をHPよりダウンロードし、事務局に提出。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 研究例会 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

2025年度研究例会を下記の通り実施します。詳細はWEBサイトにてお知らせいたします。

開催日時：11月29日 (土) 14:00～15:30
会場：日本女子大学 目白キャンパス
講演形式：対面
講師：阿佐美淑子氏 (三菱一号館美術館主任学芸員)
演題：三菱一号館美術館の「アール・デコとモード」展 - 服飾とアートから100年前の女性の生活様式の変化を読み解く -

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 展覧会のお知らせ ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

「アール・デコとモード 京都服飾文化研究財団(KCI) コレクションを中心に」

会期：2025年10月11日 (土)～2026年1月25日 (日)
会場：三菱一号館美術館 (東京・丸の内)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 近著紹介 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

小林西子著『本当はこんな格好だったシェイクスピア 劇 (上) 神々、亡霊と悪魔：初演当時の舞台演出と衣装』Amazon、2025年3月。

C. ルグラン著・石上美紀監修『世界のパッチワーク 文化と伝統をつなぐ技法と作品コレクション』グラフィック社、2024年8月。

会報 No.50：2025 (令和7) 年9月30日発行
編集発行人：服飾文化学会
事務局：141-8652 東京都品川区上大崎4-6-19
杉野服飾大学服飾文化学科西洋服飾史研究室内
TEL：03-6910-4422
E-mail：fukubunjim@gmail.com
URL：http://fukushoku-bunka-gakkai.jp/